

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 第	号
------	-----	---

氏 名 小野山 絢香

論 文 題 目

Relationship between psychological factors and wound occurrence in patients with peripheral arterial disease in the leg

(PAD患者の心理的要因と創発生の関連性について)

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	千島 亮
	名古屋大学教授	辛島 千恵子
	名古屋大学教授	寶珠山 稔

論文審査の結果の要旨

【背景】末梢動脈疾患 (Peripheral Arterial Disease: PAD) は下肢の冷感や痺れ、間歇性跛行が特徴的の症状であり、重症例では安静時疼痛や潰瘍、壊疽が生じる。PAD の予後について重症 PAD 患者の 1 年生存率は 25%、創の再発率は 43%と報告されている。一方で治療のコンプライアンスに心理的要因が予後に影響する可能性が指摘されている。PAD 患者の心理的要因についてこれまで研究がほとんどなされておらず、本研究の実施に至った。

【目的】PAD 治療後の患者について前向きコホート研究を実施し、PAD 患者の心理的因子と創再発の関連を明らかにする。

【方法】急性期病院へ入院した PAD 患者 50 名を対象とした。対象者には、Geriatric depression scale (GDS) 簡易版、Type-D scale 14、MOS 36 Item Short-Form Health Survey (SF-36)、機能的自立度評価法 (FIM)、Self-efficacy for managing chronic disease scale (SE-MCDS)、Barriers self-efficacy scale (BARSE)、Mini nutritional assessment (MNA) 簡易版をそれぞれ評価し、創の再発および処置治療継続の有無について退院後 6 ヶ月間について調査した。

【結果】創発生者 (n=36) では有意に SF-36 の精神的要因 (Mental category scale, MCS) は高く、社会的役割要因 (Role/social category score, RCS) は低く、また、Fontaine 分類のステージが有意に高い結果となった。Fontaine 分類をマッチングさせたグループでは、SF-36 の総合健康要因 (General health factor, GH) および MCS が有意に低く、RCS が有意に高い結果となった。ロジスティック回帰の結果、SF-36 の MCS、RCS それぞれが創発生、要治療の予測因子であった。

【考察】PAD の治療後の再発については MCS が主要な要因であった一方、創の臨床の状態および PAD に直接関連する医学的要因にはばらつきが大きく、一定の関係が示されなかった。心理的因子は、患者の社会的活動にも大きく影響することが考えられ、治療後の比較的短期間 (6 か月) であっても心理的ケアや社会活動参加へのサポートが重要であると考えられた。また、これまで PAD 患者の経過観察において、心理的要因に焦点をあてた研究は少なく、医学的要因 (基礎疾患や創の状態など) とともに、心理的および社会的要因を評価することが必要と考えられた。評価バッテリーは、研究実施時点で PAD に特化したものは無く、SF-36 の下位項目を流用したことから、疾患特異的な評価バッテリーの必要性が指摘された。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

- 1) 末梢動脈疾患患者の入院治療後の創再発について退院後 6 か月間の前向きコホート研究を行った。
- 2) SF-36 の下位項目である精神的要因 (MCS) および社会的役割要因 (RCS) それぞれが創発生による再治療を必要とする予測因子であることが明らかとなった。
- 3) 末梢動脈疾患患者の治療後の再発予防については心理的・社会的要因を考慮した評価や介入はこれまでに無く、その必要性を指摘した。

本研究の主な内容は国際学術雑誌 Int J Low Extrem Wounds (SAGE Publishing, IF: 1.380, 2020 年 8 月) に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士 (リハビリテーション療法学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	小野山 絢香
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学教授	名古屋大学教授
	千島 亮		辛島 千恵子	 實珠山 稔 
(試験の結果の要旨)				
主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理的要因の測定尺度の適切性について 2. 心理的要因の定義について 3. 基礎疾患による本研究での心理的要因への影響の有無 4. 創の発生と心理的要因の関連を捉えることの臨床的意義 5. 本研究の展望と作業療法実践への意義 				
<p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、リハビリテーション療法学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				